

2つの拠点による「働き方改革」

ICTによる雇用創出・人材誘致プロジェクト

1. 本市の特性と課題

本市はJR・私鉄により京阪神都市部への通勤アクセスが確保されているものの、乗り継ぎの関係上、約2時間かかる点で近隣市より条件が悪く、通勤圏の外縁部に位置している。県内主要ビジネス街へも電車ダイヤが少なく、朝夕の時間調整が困難である。このため、より通勤しやすい環境を求めて都市部近辺へ転出する住民が多く、社会減少の大きな要因となっている。市内に大学が所在していることから、若年人口割合が高いにも関わらず、卒業生の大半が市外に流出している。また、市域の半分を占める東部高原地域では市内中心部までの交通手段も限られ、地域内の雇用もほとんどない状況で、人口減少と高齢化が急速に進んでいる。

2. 「働き方改革」による雇用創出、人材誘致

(1) 上記の課題に対し、市中心駅周辺と高原地域の遊休施設を整備活用して2カ所の「テレワーク拠点」を創設する。場所や時間にとらわれない柔軟な働き方が可能な「場」を提供することで、通勤負担の軽減や生活効率の向上を実現するとともに、新たな雇用を掘り起こし、若い世代の市外転出を抑制して現役世代を市内に留める。

(2) 「テレワーク拠点」では、本市市民を雇用する事業者及び社員が、ICTシステムを含め無料で利用でき、事業者がサテライトオフィスとして活用もできる共用オフィス空間を設ける。また、参加事業者に対して、テレワーク導入に向けた職種の設定やシステム導入などの制度構築支援を行うとともに、利用者のキャパシティビルディングのための講習や、対企業/市民向け啓発PR事業を実施し、「働き方改革」を推進する。また、本市の産業振興部署の職員も同拠点を活用することで、施設の運営と同時に、市役所内における「働き方改革」も導入する。

3. 政策間連携

(1) 市中心駅周辺の拠点は、市内の商工関係者や地域住民等のための交流・情報発信機能と新事業のインキュベーション機能を兼ねることで、産業振興や市中心部の活性化につなげる。また、ハローワークと連携した市の就職相談/マッチング拠点（創生先行事業としてH27年度整備中）と連動させ、柔軟な働き方の提供により、子育て世代や若者等に幅広い就労機会を創出する。

(2) 旧幼稚園跡の施設を活用する高原地域の拠点は、福祉事業者等と連携して、子どもを同伴して遊ばせながらテレワーク勤務が可能な施設とし、子育て女性を中心に「埋もれていた労働力」の活用を図るとともに、多世代交流事業などにより地域の活性化にもつなげ、山間における「小さな拠点」づくりに努める。

4. 地域間連携

(1) 市中心駅周辺拠点の参加企業に対して、高原地域拠点の利用者の雇用を促すなどの「橋渡し」を行うことで、従来は市内事業者への就労も困難であった高原地域の子育て女性等の雇用機会を創出し、市内平野部と高原地域の交流も促進する。

(2) 定住自立圏構想の連携自治体の住民にも本件拠点を開放することで、圏域全体としての雇用創出と人材誘致、産業振興を図る。

5. 先駆性

本市でのテレワーク普及促進は、通勤アクセスの不便さから人口の社会減に悩む都市圏外縁部の地域を、自宅周辺での勤務と事業所への出勤を柔軟に組み合わせられる地域へと「読み替え」ることにより、都市雇用圏のすそ野を広げる、新たな類型を提示するものである。

商店街空き店舗



旧福住幼稚園

